

くまびょう

104号

NEWS

くまびょう
NEWS2006年
2月1日

[発行所]

国立病院機構熊本医療センター
(前 国立熊本病院)

〒860-0008

熊本市二の丸1番5号

TEL (096) 353-6501代

FAX (096) 325-2519

第20回 開放型病院連絡会開催迫る

平成17年度第2回通算第20回開放型病院連絡会が、来る平成17年2月13日(月)午後7時より、下記の要領で開催されることになりました。

すでに別途郵送でご案内していますが、先生方よりご紹介頂きました症例の呈示を行い、次いで総合討論で病院に対する要望等を自由に発言して頂きたいと望んでいます。最後に厚生労働省医政局指導課 医療計画推進指導官 針田哲先生の「医療提供体制(救急医療を含む)について」の講演を企画させて頂きました。機能分化、医療連携、救急医療など今後の医療体制のあり方についての方向性が示されるものと期待しています。

先生方はもとより看護部門、事務部門、MSWなど多数ご参加下さいますようお願い致します。

当日、会場にて新規登録医の受付も行います。ご希望の先生は会場受付でお申し付け下さい。

なお、お車でお越しの場合は、熊本城二の丸駐車場側の裏門より臨時駐車場に御入場下さいますようお願い申し上げます。
(副院長 池井 聡)

第20回 国立病院機構熊本医療センター開放型病院連絡会

日時 : 平成18年2月13日(月) 19時~21時

場所 : 国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

内容 : 1. 紹介症例の呈示 2題
2. 総合討論
3. 特別講演「医療提供体制(救急医療を含む)について」

厚生労働省医政局指導課 医療計画推進指導官 針田 哲先生

〈参加申込先〉 国立病院機構熊本医療センター管理課

電話 096-353-6501 内線390(仲地・上園)

住所 〒860-0008 熊本市二の丸1-5

ホームページをご利用下さい。診療、研修、研究など情報満載です。

国立病院機構熊本医療センター ホームページアドレス

<http://www.hosp.go.jp/~knh/>



オーダーメイドのクリティカルパスの運用に期待

しまだ内科クリニック
院長 島田 達也



菊池恵楓園との併任を含め昭和63年から16年間国立熊本病院および国立病院機構熊本医療センターに勤務しましたが、昨年10月から黒髪5丁目の旧国道57号線沿いに、内科、代謝内科、呼吸器科、消化器科、循環器科およびアレルギー科を標榜し開業しました。当院の理念は、地域におけるかかりつけ医として、リスクマネジメントを徹底しスタッフの知識と技量を十分発揮して診療所にできる最良の医療を

おこなうこと、疾病予防も含めた健康増進に貢献すること、診療所を支える患者様、関連病医院、関連企業および職員を大切にすることです。

本邦における3大死因である、癌、心疾患、脳血管障害はいずれも生活習慣病に起因しており、これらの疾病の予防や診療においては、かかりつけ医、専門医、コメディカルおよび地域が一体となった総合的な医療戦略が重要であるとされています。特にかかりつけ医が生活習慣病の患者様を診ていく場合、疾病が重症化した時のケアや精密検査に基づいた治療方針の決定には、専門医とコメディカルを揃えた医療機関にタイムリーにお願いすることが病診連携の要と言えます。

幸いにも、日々進化する国立病院機構熊本医療センターは、専門医およびコメディカルスタッフが豊富に揃い、基幹病院として救命救急センターを擁し、クリティカルパスの導入では本邦のリーダー的存在であり、国際医療協力に貢献されるなど、かかりつけ医にとっては実に理想的な連携病院となっています。

これからは地域の患者様を紹介することも多くなるとは思いますが、患者様の個性を尊重したきめ細やかなオーダーメイドのクリティカルパスの運用を通じて、高次医療とともに心から癒される医療を実践していかれることを期待しています。

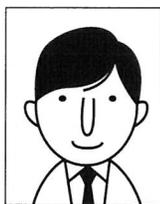
国立病院機構熊本医療センター開放型病院登録医証の発行について

登録医証は、共同指導の際に名札としてご利用頂けます。発行をご希望の先生は、管理課庶務係 (TEL 096-353-6501 内線390) までお申し込み下さいますようお願い致します。

写真は時間内であれば当院内で撮影できますし、縦4cm×横3cmで顔全体が写っているものをお持ち頂いても結構です。

また、駐車場については、玄関前駐車場ゲートにて駐車券をお取り頂き、0番窓口(時間内)又は、時間外受付(時間外)にお申し出頂ければ、無料の手続きを致します。

開放型病院登録医証



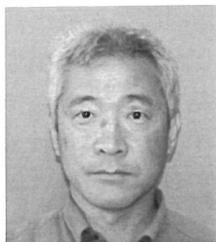
〇〇〇 医師会
熊本 太郎

平成18年1月1日交付
国立病院機構熊本医療センター

1. 国立病院機構熊本医療センターで診療を行う場合は、この証を持参し名札として着用下さい。
2. 駐車場を利用される場合は、この証を駐車場入口で提示して下さい。
3. この証の記載事項に変更があったときは速やかに届け出て下さい。
4. この証の有効期限は3年間と致します。

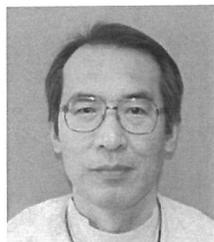
2006年 診療科紹介(29)

臨床検査センター 臨床検査科



村山 寿彦

病理一般
病理専門医
日本病理学会評議員
細胞診指導医
臨床検査専門医



東 輝一郎

内科一般、内分泌・代謝一般、糖尿病
日本内科学会指導医
日本内分泌学会内分泌・代謝専門医
日本内分泌学会内分泌・代謝科指導医
日本糖尿病学会専門医
臨床研修指導医
人間ドック学会認定医
日本医師会認定産業医
日本内科学会九州地方会評議員
日本内分泌学会九州地方会評議員
日本内分泌学会代議員



廣瀬 英治

病理一般
臨床検査技師
国際細胞検査士

特色／診療実績

日本病理学会認定施設です。熊本県内の国立病院機構病院の中で唯一病理機能をもつ検査センターです。

新臨床研修システムに対応して、剖検レポートの作成指導をはじめ、カンファレンスなど積極的に取り組んでいます。このうち総合症例検討会（CPC）は年4回公開の形で開催し、詳細な検討を行っています。

平成15年6月より院内LANで検査結果をすぐに参照できるようになりました。外来や病棟での診療に役立っています。

また検査の精度は高く、毎年行われる日本医師会制度管理調査において全国の上位にランクされています。

毎月施設内の微生物検出状況を集計し分析しています。月1回院内感染対策委員会を開催し、院内感染

予防に取り組んでいます。

開発途上国からの研修生を受け入れているのも臨床検査科の特色です。JICAなどと協力しながら国際医療協力を貢献しています。

平成16年度の診療実績は、病理診断件数は術中迅速診断を含め4,900件、病理解剖数は39件で、年4回のCPCに加えて、臨床研修のために4回の教育型CPCを行いました。

検体検査数は206万件。そのうち生化学検査が最も多く110万件、ついで血液検査49万件、一般検査（検尿など）30万件となっています。

一方、生理検査の数は約11万件で、この内訳は超音波検査 約1.5万件、心電図検査 約1.2万件、肺機能検査 約0.6万件、その他 約7.7万件でした。

平成17年度 第2回

熊本市歯科医師会・国立病院機構熊本医療センター連絡協議会報告

平成17年度第2回開放型病院連絡会の開催を前にして去る1月10日（火）、熊本市歯科医師会と国立病院機構熊本医療センターとの懇談会が催されました。市歯科医師会から古賀会長、藤波副会長、矢毛石専務理事、田中医療管理理事、尾上医療管理委員会会長、当院から宮崎院長、池井副院長、河野副院長、高橋救命救急センター部長、児玉歯科口腔外科医長が出席しました。

宮崎院長、古賀会長の挨拶の後、議事に入りました。まず児玉より当科への紹介率について、前年度に平均紹介率が念願の30%に達成したばかりですが、本年度さらに32.7%と順調に伸びていることを報告し、今後も歯科医師会のさらなる御協力をお願いしました。

次に、高橋部長より平成17年の歯科口腔外科救急症例数は111名と例年並みですが、紹介症例数が21例と増

加してきているとの報告がありました。

続いて、児玉より救急蘇生講座は11月9日（木）に開催予定、歯科医臨床研修医について、当科の障害者歯科医療の現状について報告した後、池井副院長により2月13日（月）に開催される開放型病院連絡会についての報告がありました。今回の連絡会は症例紹介の呈示、総合討論、厚生労働省医療計画推進指導官 針田哲先生による特別講演が予定されており、総合討論への歯科医師会会員の参加をお願いして閉会となりました。

会を終えて、年に2回の開放型病院連絡会の開催は国立病院機構熊本医療センターと歯科医師会員との連携を深め、地域医療の貢献へとつながっていく重要な会であると感じました。

（歯科・口腔外科医長 児玉 圀昭）

東京医科大学心臓血管低侵襲治療センター研修を終えて



心臓血管センター
心臓血管外科

岡本 実

平成17年11月22日より、12月27日まで東京医科大学第2外科心臓血管低侵襲治療グループで研修させて頂く機会を与えて頂きました。この東京医科大学心臓血管低侵襲治療センターでは、遠位弓部大動脈から腹部大動脈までの、真性動脈瘤および慢性解離性大動脈瘤に対し、10年以上前よりステント治療を積極的に行ってきています。症例数では500例を超え国内トップであり、世界的にも2番目であることで有名です。とくに、遠位弓部大動脈瘤に対するステント治療は世界でトップ水準です。さらに治療成績もよく、独自のコンセプトでステントグラフトを開発し、現在も改良を進めています。

私は、腹部大動脈瘤2例と胸部大動脈瘤1例にステント内挿術を経験していましたが、いずれの症例も全身麻酔が不可能な重度呼吸障害の患者でした。通常、呼吸機能や全身状態に問題ない患者には手術が優先されており、実際、手術成績に問題なく、合併症も少なかったため、特殊な症例以外へのステント治療の必要性や有用性については、循環器科、心臓血管外科チームとも、治療の根治性や確実性を追及するならば手術のほうが患者にとって利益が大きいだらうと考えていました。現在の東京医大での診療では、心臓血管外科チームに紹介される患者のほとんどが動脈瘤へのステント治療を希望されているか、セカンドオピニオンとして受診されており、紹介病院も東京大学、女子医大をはじめ、関東地方のみならず、大きな基幹病院のしかも心臓血管外科医からの紹介も含まれ、ステント治療がすでに定着しつつあると感じました。

このステント治療は、大血管手術に取って代われるものとはチームのだれもが考えておらず、あくまでも動脈瘤治療の1選択肢であることを強調されていたのが印象的で、手術適応や症例選択、患者、家族への説明も慎重にされていました。

しかし、遠位弓部大動脈瘤や8cmもある下行大動脈瘤のステント手術が2～3時間で終了し、術直後に手術室で抜管でき、翌日にはICU退室、食事開始と局所麻酔並みの術後管理を目の当たりにすると、同じ手術が、開胸開腹を施行し人工心肺を使用、そして8時間

から10時間を超える手術を必要とし、しかも術後も呼吸管理、循環管理、出血の心配などしなければならぬことを考えれば、今までの常識がうそのように感じてしまうのは私だけではないと思います。もちろん、患者への負担は極めて少なく、主治医やICUスタッフの負担もほとんど無いわけです。

2006年度に、ステント治療に対し、日本心臓血管外科学会と日本放射線学会は共同で、指導医の選任と認定医制度を発足させることになりました。当院心臓血管外科、岡本健先生はすでに東京医大で研修し、ステント挿入の経験もあるため、認定医の資格が得られるようになれば、当院でのステント治療が公表できるようになります。

血管内治療は、いろんな分野で進歩してきています。大血管の動脈瘤への適応も例外ではなく、今後患者の負担の少ないより低侵襲の治療へと進んでいく必要があると思います。

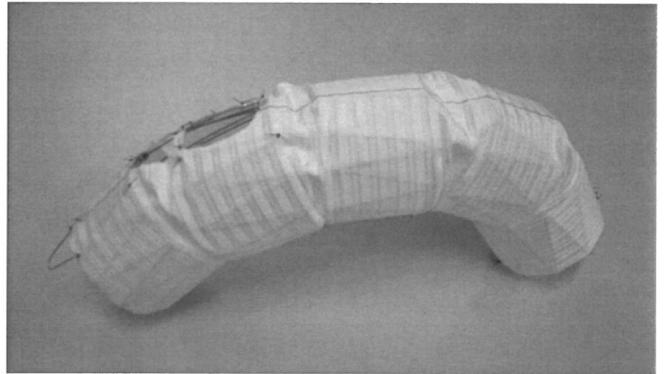


図1 遠位弓部大動脈瘤用のステント

大動脈瘤から挿入し、先端は、上行大動脈まで挿入され、穴の開いた部分に腕頭動脈、左総頸動脈入口部が一致するように設計されている。左鎖骨下動脈は、閉鎖される構造。

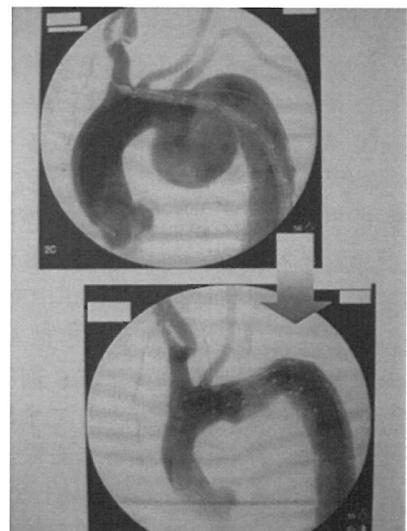


図2 遠位弓部大動脈瘤治療の実際

エジプト第3国研修報告

この度、エジプト、イスマイリア市、スエズ運河大学医学部での第3国研修コース“感染症対策”に講師として派遣され、帰国しました。本コースは、今年度が2年目（通算で10年目）でしたが、当初の目標であるアフリカ途上国の感染症診断レベルの向上に著しく貢献してきました。コースリーダーのスエズ運河大学臨床病理学部門教授アハメド・ゴハリー博士は、1992年に、国立熊本病院（現国立病院機構熊本医療センター）の“血液由来感染症コース”に参加し、我々との交流を続けてきました。その後、当院のこのコースへのアフリカ諸国からの参加希望者が多いことより、交通の便がよく、ゴハリー博士などの信頼する講師陣の構成が可能なエジプトで当院と同じ内容の研修コースを実施する第3国研修計画が浮上しました。その後、曲折を経てJICA（国際協力事業団）の援助の下にゴハリー博士をコースリーダーとしたスエズ運河大学での実施が現実化しました。このような経緯から国立病院機構熊本医療センターは、このコースの計画立案から参画し、第1回より毎年講師を派遣してきています。また、当院はスエズ運河大学医学部附属病院と2000年に姉妹施設となり、河野は同年、スエズ運河大学医学部骨髓移植部門の客員教授に就任し現在に至っています。

今回は、(1)HTLV-1感染と成人T細胞白血病(ATL)
(2)ATLの治療、特に造血幹細胞移植についての2つのテーマで講演し、同時に開催された第26回アフリカ健康科学学会でも“ATL and Stem Cell Transplantation”のタイトルで招待講演を行いました。帰国前には、エジプトJICA並びにエジプト大使館にて、今後も本コースをさらにレベルアップした内容に改善し、よりすばらしい第3国研修コースとして継続するように、説明と提言を行いました。

(副院長：臨床研究部長 河野 文夫)



第11回 国立病院機構熊本医療センター医学会開催される

1月14日、15日の両日にわたって、国立病院機構熊本医療センター医学会が、地域医療研修センターにて開催されました。今回は、一般演題68題が報告されました。また、特別講演には、国立病院機構本部研究課長の伊藤澄信先生に、“EBM研究への取り組み”という演題で、ご講演頂きました。また、本学会は、登録医の先生方のご参加もあり、今回も、岡部正人先生、木村圭志先生、川原文次先生に座長をお願いしました。前年度、当学会で発表した演題で論文化された中から、今回は、最優秀賞：呼吸器科 森松嘉孝、奨励賞：放射線技師 市川和幸、看護師 黒野七重、看護師 作守留美子、特別賞：熊本市消防局 千場和貴、救命救急センター長 高橋毅が宮崎院長より表彰されました。

次年度もさらに立派な医学会となるよう、全スタッフの更なる努力が望まれます。

(副院長：臨床研究部長 河野 文夫)



伊藤研究課長による特別講演

■原稿を募集致します■

登録医の先生の投稿を歓迎致します。400～800字程度を基準にお願い致します。

送付先 〒860-0008 熊本市二の丸1-5

国立病院機構熊本医療センター 『くまびょうNEWS』編集室まで

新任職員紹介



感覚器センター

耳鼻咽喉科

おがた のり ひさ
緒 方 憲 久

平成18年2月より耳鼻咽喉科医として勤務していません緒方憲久です。平成2年大分医科大学を卒業して熊本大学耳鼻咽喉科（石川哮教授）に入局しました。熊本大学附属病院、国立熊本病院（国立病院機構熊本医療センター）にて研修後、平成4年から熊本大学医学部大学院に入学しました。好酸球性炎症を中心にアレルギーをテーマに研究を開始して平成7年からは東京

大学医科学研究所免疫学研究部にてIL-5のシグナル伝達に関する研究にも従事しました。平成9年に熊本大学耳鼻咽喉科に復帰してからは頭頸部腫瘍を中心に臨床および研究を行ってきました。頭頸部領域の癌においては切除後に嚥下・構音機能が問題となることが多く、頭頸部再建も含めた手術を積極的に行ってきました。平成16年から1年間はロンドン大学耳鼻咽喉科病院で再びアレルギー・鼻炎の臨床研究を行っています。

当院では頭頸部腫瘍、アレルギーを中心に患者さんの治療にあたりるとともに、国立病院機構熊本医療センター耳鼻咽喉科の伝統である中耳炎の治療にも積極的に取り組みたいと思っています。

先生方の御指導・御鞭撻の程をよろしくお願い致します。

研修レポート

外科

つしま あいこ
津島 愛子



はじめまして。平成17年4月から国立病院機構熊本医療センターで研修をさせて頂いている津島愛子と申します。2年間お世話になります。

この10ヶ月間で内科（腎臓内科、消化器内科、循環器内科）、麻酔科をローテートし、現在外科にて研修中です。外科研修は予想通り、患者数が多く、体力的にもハードで毎日先生方についていくのがやっとなのですが、日々色々な経験ができて非常に充実した研修をさせて頂いています。縫合や糸結び等技術的なことはもちろんのこと、今後どの科に進もうとも必要な、清潔操作、全身管理の仕方、輸液について等数多くのことを学びました。また、特に勉強になったのが患者様への接し方で、朝夕必ず1日2回は患者様全員を診にいきます。インフォームドコンセントにおいても、時間をかけて手術の方法や起こり得る合併症等丁寧に説明しており、医師－患者間の信頼関係を築く上で、このような説明や患者様への真摯な態度がいかに大切か、また知識や技術だけでなく、きちんと説明できる能力

も身に付けていかなければならないと思いました。

麻酔科研修の2ヶ月間は毎日が緊張の連続で、点滴確保から気管挿管、脊椎麻酔まで何症例も経験でき、初めの何もできない頃と比べてある程度の自信もつきました。かなり多くの失敗も経験し、落ち込むことも多々ありましたが、その分得ることも多かった2ヶ月間だと思います。

内科系はそれぞれが2ヶ月間であっという間でしたが、身体所見のとり方、カルテの書き方、鑑別診断の挙げ方、それに対するアプローチの仕方等様々なことをご指導頂きました。腎臓内科では、透析導入、腎不全患者の輸液管理、薬物療法等を学び、IVH、透析患者へのカテーテル挿入、シャント手術等の手技も多く経験させて頂きました。消化器内科では外来陪席、内視鏡検査や腹部エコー検査を中心に研修しましたが、特に腹部エコーである程度観察できるようになったことは大きな収穫です。各臓器の見方や出し方、異常所見等丁寧に指導頂きました。

循環器内科では、心不全、心筋梗塞、肺塞栓症など早急な診断と治療が必要な疾患が多く、的確に患者様の状態を把握し、急性期にまず行うべき治療は何かということを考えるように努めました。心臓カテーテル検査ではスワンガンツカテーテル挿入も経験でき、また初めての学会発表も経験させて頂きました。

まだまだ未熟者で、悪戦苦闘する毎日ですが、少しずつ成長していけるよう頑張りますので、今後ご指導、ご鞭撻の程宜しくお願い致します。

研修のご案内

第15回 熊本がんフォーラム(無料)

日時▶平成18年2月2日(木)18:30~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

「肝がんの局所療法について」

司会 医療法人岡部病院長 岡部 正人
国立病院機構熊本医療センター外科 大堂 雅晴

その他、一般演題を数題準備しています。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター副院長 池井 聡 TEL 096-353-6501 (代表) FAX 096-325-2519

第54回 三木会(無料)

(糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会)

[日本医師会生涯教育講座3単位認定]

[糖尿病療養指導士認定更新0.5単位認定]

日時▶平成18年2月16日(木)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

1. 糖尿病患者における血糖コントロールの注意点について

国立病院機構熊本医療センター総合医療センター代謝内科

児玉章子、市原ゆかり、高橋毅、東輝一朗、小堀祥三

2. 末梢血行障害に対する血管新生療法

国立病院機構熊本医療センター心臓血管センター循環器科

藤本和輝、新造竜也、大庭圭介、梶原一郎、村上和憲、宮尾雄治

3. 糖尿病の1症例についての検討

国立病院機構熊本再春荘病院代謝内科 蛭原 賢司

なお、興味のある症例・ご疑問・ご質問のある症例がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター総合医療センター代謝内科 小堀 祥三・東 輝一朗 TEL 096-353-6501 (代表) 内線796

第85回 月曜会(無料)

(内科症例検討会)

[日本医師会生涯教育講座3単位認定]

日時▶平成18年2月20日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

1. 胸部X線写真供覧

国立病院機構熊本医療センター総合医療センター呼吸器内科医長 森松 嘉孝

2. 持ち込み症例の検討

3. 症例呈示「集中治療で救命しえた重症急性膵炎の1例」

国立病院機構熊本医療センター総合医療センター消化器病センター 中田 成紀

4. ミニレクチャー「白血病に対する分子標的療法」

国立病院機構熊本医療センター総合医療センター血液・膠原病科 松野 直史

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線写真、心電図、その他がございましたら、ご持参下さいようお願い致します。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター副院長 河野 文夫 TEL 096-353-6501 (代表) FAX 096-325-2519

第74回 救急症例検討会(無料)

日時▶平成18年2月22日(水)18:30~20:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

症例検討「呼吸器救急疾患」

国立病院機構熊本医療センター総合医療センター呼吸器内科医長 森松 嘉孝

医師、薬剤師、看護師、放射線技師、臨床検査技師、栄養士、救急救命士、救急隊員、事務部門等全ての医療従事者を対象とした症例検討会です。医師以外の方にも理解できるよう配慮した内容にしています。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501 (代表) 内線263 096-353-3515 (直通)

第199回 初期治療講座(会員制)

[日本医師会生涯教育講座5単位認定]

日時▶平成18年2月25日(土)15:00~17:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

「顔面外傷の診断と治療」

座長 熊本市医師会 中島 英親

1. 脳神経外科の立場から

国立病院機構熊本医療センター脳神経センター脳神経外科医長 大塚 忠弘

2. 眼科の立場から

国立病院機構熊本医療センター感覚器センター眼科医長 青木 浩則

3. 耳鼻科の立場から

国立病院機構熊本医療センター感覚器センター耳鼻咽喉科医長 野口 聡

4. 口腔外科の立場から

国立病院機構熊本医療センター歯科口腔外科医長 児玉 圀昭

5. 形成外科の立場から

国立病院機構熊本医療センター形成外科医長 大島 秀男

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ(年会費20,000円)として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は会費5,000円で参加いただけます。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501 (代表) 内線263 096-353-3515 (直通)

平成18年 研修日程表 2月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

2月	研修ホール	会議室	その他
1日(水)		16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C 7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C
2日(木)	18:30~20:30 第15回 熊本がんフォーラム 「肝癌の局所療法について」 司会 医療法人 岡部病院長 岡部 正人 国立病院機構熊本医療センター外科 大堂 雅晴		
3日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 8:00 皮膚科症例検討会 臨 17~18 救急部カンファレンス C
4日(土)	14:00~16:00 第187回 滅菌消毒法講座《会員制》 「洗浄の基礎」 研究発表	健康保険八代総合病院器材部 藤井 裕 *第2種滅菌士認定更新単位取得講座	
6日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
7日(火)		18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前術後症例検討会 C
8日(水)	18:30~20:00 病薬連携研修会	16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17~00 消化器疾患カンファレンス C
9日(木)			7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C
10日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 8:00 皮膚科症例検討会 臨 17~18 救急部カンファレンス C
13日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
14日(火)	19:00~20:30 熊本県臨床衛生検査技師会 一般検査研究班月例会	18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前術後症例検討会 C 19~21 泌・放射線科合同ウログラム C 17:00 消化器疾患カンファレンス C
15日(水)	13:00~17:30 医療マネジメント学会主催 第21回クリティカルパス実践セミナー in熊本〔1日目〕 18:00~19:30 第41回 国立病院機構熊本医療センタークリティカルパス研究会(公開)		
16日(木)	9:00~14:30 医療マネジメント学会主催 第21回クリティカルパス実践セミナー in熊本〔2日目〕 19:30~21:30 第42回 有病者歯科医療講演会 座長 熊本県歯科医師会学術委員会理事 伊藤 明彦 「最近の麻酔と救急蘇生法 —呼吸・気道の評価および気道確保法—」 国立病院機構熊本医療センター ICU室長 瀧 賢一郎	19:00~20:30 第54回 三木会 (糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座3単位認定] [糖尿病療養指導士認定更新0.5単位認定]	7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C
17日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 8:00 皮膚科症例検討会 臨 17~18 救急部カンファレンス C
19日(日)	8:30~16:00 日本臨床細胞学会熊本県支部研修会 <総会・学会>		
20日(月)	19:00~20:30 第85回 月曜会(内科症例検討会) [日本医師会生涯教育講座3単位認定]		8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
21日(火)		18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前術後症例検討会 C
22日(水)	18:30~20:00 第74回 救急症例検討会 「呼吸器救急疾患」	16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
23日(木)		19:00~21:00 熊本脳神経疾患懇話会	7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C
24日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 8:00 皮膚科症例検討会 臨 17~18 救急部カンファレンス C
25日(土)	15:00~17:30 第199回 初期治療講座《会員制》 「顔面外傷の診断と治療」 1. 脳神経外科の立場から 国立病院機構熊本医療センター脳神経センター脳神経外科医長 大塚 忠弘 2. 眼科の立場から 国立病院機構熊本医療センター感覚器センター眼科医長 青木 浩則 3. 耳鼻科の立場から 国立病院機構熊本医療センター感覚器センター耳鼻咽喉科医長 野口 聡 4. 口腔外科の立場から 国立病院機構熊本医療センター歯科口腔外科医長 児玉 閑昭 5. 形成外科の立場から 国立病院機構熊本医療センター形成外科医長 大島 秀男	[日本医師会生涯教育講座5単位認定] 座長 熊本市医師会 中島 英親	
27日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
28日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	18:00~19:30 血液病懇話会(図) 19:00~21:00 小児科火曜会	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前術後症例検討会 C

(図) 図書室 C 病院本館2階カンファレンス 手術室控室 臨 臨床研究部会議室 別6 別6病棟 外来 小児科外来

問い合わせ先 〒860-0008 熊本市二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

TEL 096-353-6501(代) 内線263 096-353-3515(直通)